



黒田三佳の里山ソムリエ®な日々



Where 上杉藩の頃、城下に収まりきれなかった武士が、半士半農で暮らした山形県米沢の里山

Start 一度の旅で「ここで暮らしたいな」と思ったことがきっかけ。

Now 誰かの力を借りたり誰かの力になれることを幸せに感じる、現代版半士半農な里山ソムリエな日々

Life 森と畑に囲まれた農的暮らし 就農（農地購入、農家さんと関わり豊かになる日々） 組制度

豊かな家族時間と家時間 肉体労働（笑）で体力維持 エシカルな暮らし

下のマーケットの地図のログハウスが自宅です。左となりの古い民家（！！円）に東京の父を呼びました。自宅敷地解放のマーケットはご近所も駐車場提供や案内ボランティア→上杉鷹山公の自助互助のスピリットを感じます。



Work

- 人材育成アカデミーローズレーン 代表
- 人材育成（企業、病院、大学、行政機関、商工会議所など）講演、ライフワークバランス、起業支援
- 英語塾主催（みなみはらえいごくらぶ カリキュラムもテキストも手作り）
- 山形県教育庁家庭教育アドバイザー 子育て講演やセミナー
- 米沢市教育委員
- 山形大学理工学研究科博士前期課程非常勤講師
- FM おきたま GO パーソナリティ 黒田三佳の STEPS
- エッセイなどの執筆 おもてなし教室（自宅となり里山ビジョンハウス）



Change

家の裏の森に出かけ五感を使うように、自分のいろんな部分を使うようになります（笑）
ないことは自分でやる能動的な生き方 周りの方にたすけてもらう日々 自然の美しさも脅威も知る
大事なことを大事にするようになり、どうでもいいことはどうでもよくなります（笑）

「晩冬に届いたやさしい香り」

(山形のラスクの会社で書かせていただいている日々のエッセイより抜粋)



冬土用を迎えた頃、西の友人からやさしい便りがありました。山形に以前暮らし、今は佐賀にいる大切な人。お会いしたのは数回のはずなのにいつもどこか近くにいる女性。「心が通う」ということはこういうことなのかもしれません。やさしい便りと一緒に届いた蠟梅の枝、佐賀から山形へ旅をして、春への兆しを香りで届けてくれました。

雪が降り、モノトーンとなった日に、蠟梅の花と香りは光をさしてくれたようで、雲の隙間からお日様ものぞいてくれました。蠟梅は、花が梅に似ているので、梅の

名前をかりていますが、陰暦の臘月12月頃に咲くため、晩冬の季語になっています。

雪の里山に、蠟梅のロウ細工のような花びらと重なる冬の花があります。ここに暮らし始め、初めてお正月を迎えた大雪のある日、農家のおじいさんが届けてくれた笹野の椿です。東京から引っ越した私が、雪ばかりで花も見ないで嫌になってしまわないようにと、自ら作って持ってきてくれた造り花です。心配してくれる人が近くにいることがうれしくて、ありがたくて、今も笹野の椿を見るたびに温かい気持ちになります。

笹野の椿は、和紙で作った花びらを溶かしたロウの中に浸し作られます。貴重なロウをまとった後は、緑の葉だけをつけた雪椿の枝につけられ、花を咲かせます。雪椿の枝は、雪の中、山へと取りにいったものです。

目の前にいなくても、多くの言葉を交わさなくても、その人の生き方を感じて、想像力で「心が通う」こと、降り積もった雪を眺めながら、温かい気持ちになりました。

さて、今日のスケッチは、ジョージ・ジェンセンのイヤープendantです。(イラストJ. Kikuchi)

銀細工師ジョージ・ジェンセンによって創業されたブランドには、宝飾品だけでなくカトラリーやコーヒーポットなど暮らしを豊かにする様々なものがあります。芸術性ともものづくりの確かさを感じるデザインに心惹かれ、仕事でコペンハーゲンを訪れると必ずお店に足を運びました。このイラストは、ジョージ・ジェンセンのデザインを再現したイヤープendantの最初の作品で、どんぐり(エイコーン)がデザインされたものです。ジョージ・ジェンセンのデザインには、自然を基調にしたものが多く、イヤープendantのモチーフにも、花や植物が多く使われています。その時代のアールヌーボーの影響だけでなく、きっと彼の生い立ちにも由来しているのでしょう。



その後、母親になった私は、家族でデンマークに暮らす機会がありました。自転車に娘をのせて森の中を走ると、本当にたくさんのどんぐりに出会いました。デンマークの森にはブナ科の落葉樹が多く、落ち葉の絨毯どころか、落ち葉の中に小さな娘はかくれんぼできるほどでした。毎日のように森に出かけ、集めたどんぐりでネックレスをつくりお揃いでおしゃれをしていると、散歩をしている老夫婦にこんな言い伝えを教えてもらいました。「一粒のどんぐりをもっていると幸せになれるんだよ」

今暮らしている山形の里山の森にもどんぐりがたくさん落ちています。秋にわが家を訪れた親子が、裏山の森に出かけ、子供さんが手をグーにして帰ってきました。「お母さん、おうちでどんぐりの木を育てよう。」

開いた拳からヒゲのような芽を出したどんぐりが出てきました。

いつか大きなどんぐりの木の下で、その日のことを思い出すかもしれませんね。

今日は皆さん、お話を聞いて頂きありがとうございました。

私は、旅に来て温かい人や豊かな自然に出会い、あまり考えずに知人も友人もない米沢に家族と移住しましたが、本当によかったです。故郷東京も好きですが、米沢に暮らしてみても、旅の人ではわからない、素敵なことがたくさんありました。15年たっても毎日が新鮮で、毎日が修行です(笑) 海外の童話を読んでいた小さな頃からきっと、自分の森でピクニックすること、夢に見ていたのかもしれない。田舎へ行けば行くほど、そうぞう力を働かせて、やること(暮らしも仕事も役割も)はたくさんあるし、自由に作れる気がします。地方に暮らしてみる、そんな選択でもう一人の自分に出会えた気がします。 里山ソムリエ 黒田三佳 2017.2.17